

旅日記2004

## インド洋大津波被災記

2004年12月末  
4年振りの海外旅行に  
タイへ出かける  
ピピ島到着20分後にやってきたのが  
大津波  
被災体験を経て  
多くを学んだ貴重な旅を  
写真と共に振り返る

旅日記2004

## インド洋大津波被災記

### (1) 前書き

海外旅行を思い立って2日後、タイ往復の航空券を入手し、4年振りの一人旅へ出かけることとなった。今までの貧乏旅行ではなく、少しリッチに、ガイドブックで紹介されているおいしいものを食べようかなと。目的としたのは次の3つ。①きれいな海でダイビング、②スラターニーー - バンコク間を鉄道で横断、③バンコク満喫（ムエタイ&大学訪問）。

いざ出かけてみたら、旅どころじゃないそんな経験も。でも、結局思ったこと。旅ってやっぱり楽しい。そして、タイってほんとにいい国です。

### (2) 旅程

- 12月25日 旅立ち → そしてTHAILANDへ
- 12月26日 ピピ島入り → 津波 → 山中避難（津波被災記）
- 12月27日 ピピ島脱出&帰国手続き
- 12月28日 プーケット散策
- 12月29日 プーケット脱出（台北滞在）
- 12月30日 日本帰国（福岡着）

### (3) 旅立ちまでの経緯

2004年末、有給休暇2日を加え、12月25日からの10連休を確保。のんびり家で過ごすかな、そんな思いもあった。でも、このHPで2000年旅行記を編纂した時思い出した。東南アジアの一人旅が自分に与えてくれたもの。自分の原点を見つめなおすため、旅に出よう。そう決意した。

12月20日

休み5日前、旅好きの友達とこれまでの旅行の話をし、旅に出るのもありかなと思いはじめ。考えられる日数としては、25日から30日までの5泊6日。ネットで航空券の空き状況と値段を調べる。福岡ーバンコクで56,000円程度、許容範囲。

海外へは、次にいつ行けるか分からない。タイにこだわらず、行ったことのない場所に行くべきでは、との思いがよぎる。次に行くならと前回の旅以降に考えていた、カンボジアにあるアンコールワットへという思い。

ベトナムとカンボジアを周遊するチケットが取れないかと、ネットで検索。探す限り、あるのはほぼツアーのみ。値段も13万円近くとなり、ちょっと条件が合わない。それならこれまでの節約旅行じゃなく、ある程度の贅沢旅行で違うタイを満喫しようと方向転換。

6日滞在するなら、バンコクだけじゃ物足りない。これまでの旅で感じたこと、タイの鉄道旅行はおもしろい。そこで、鉄道を使った旅にしようと決断。鉄道往復は時間的にきついから、オープンジョーを利用した、バンコク入り、プーケット出のチケットを探す。

なぜプーケットか？プーケットから船で2時間、そこには東南アジア美しい島ピピ島があるから。きれいな海でダイビングをすることをもう一つの目的に加えようと考えた。

12月21日

ABロードネット版でチケットを探索し、電話連絡で詳細を問い合わせ。プーケット入、バンコク出のチケットが入手可能であることを確認。チケット時間を基に、旅行計画をたてる。

12月22日

旅行会社に航空券代57,000円を振り込む。これで旅行に行くことは確定。さあ後は準備をして、旅立つだけとなった。

### (4) 12月25日 旅立ち → そしてTHAILANDへ 出国

先週から続く風邪は完調とまではいかず、暑い国にいけば何とかなるさと、気持ちを切り替え旅立つ。

実家出発の旅となり、時間にうるさい父親にせかされ、予定より早めに家を出る。確か4十数分発の博多行き新幹線だから35分頃に到着しておけばという思いの中、新山口駅に着いたのは7時25分。Tシャツにカーディガンを羽織った薄着での待機に憂鬱さを感じつつ、駅構内に入り見上げた時刻表が示す出発時刻は、7時34分。なんと、思いっきりの勘違い。急いで乗車券を購入し、乗り込む。まさかの旅

行中止をなんとか免れるも、なにやら先が思いやられる。

福岡空港国際ターミナル着 9時00分。旅行会社担当者から飛行場でチケットをもらう段取り。最初の旅行会社からの指示は、飛行機出発2時間前(8時10分)に来てください。となると新幹線乗車が6時・・・、そりゃ避けたい。まあ、早く行っても待たされるだけの経験則から、前日電話で8時45分頃行きますからと勝手に変更。福岡空港到着後、国際ターミナルがバスでの移動を要する離れた場所にあることを知り、結局15分遅刻の9時00分に到着。まあ、1時間前だし大丈夫よねと担当者からチケットをもらいチェックインへ。

ところがところが、出国カウンターにできたのは長蛇の列、お正月出国ラッシュにもろかぶり。搭乗時刻は9時40分、現在時刻9時10分。まあなんとかなるでしょう、いざとなれば割り込みさせてくれるだろうしと列の消化を待つ。結構ぎりぎり、9時40分に出国カウンター通過。無事飛行機に乗り込み出国へ。

飛行機は、チャイナエアライン。台湾経由のプーケット入りで、一度台北での乗り換えあり。福岡発直後の機内食は、シーフードを選択。味は薄めでいまいちも、久々の珍しさも手伝い完食。台北では、乗継場所を迷いながらも無事搭乗。直後2度目の機内食も、2時間空けずの食事はちときつく、とりあえずメインのチキンのみ軽く味見。味は・・・、まあ贅沢は言うまい。

## プーケット到着

入国カウンターには、サンタの帽子を被った管理官。うーん、今日は12月25日、メリークリスマスですな。



## プーケットタウン

目指すはプーケットタウン。安く街まで行ける手段、空港からミニバスを選択。プーケット泊の理由は、当日ピピ島に行きたいけど、時間の合う船便がないため。そして、明日朝一でピピ島に行くには、プーケットタウンが一番便利な場所だから。

この日の目的は、宿と明日のピピ島行きチケットを確保すること。空港から走ることも数十分、結局ミニバスが着いた先は、プーケットタウンの外れにある旅行代理店。どうやら提携しているよう。

宿はタウンに着いて歩いて探すつもりだったけど、せっかくだから、旅行代理店に入り話を聞く。提示は、ファン付き800バーツ(以下、「B」。1B=約3円)。話にならん。こちとら宿にかける予算は、300B。まずは、「200Bでないか?」と聞く。今度は向こうが話

にならんと呆れ顔。交渉の余地もなさそうだし、「自分で探すから、プーケットタウンの地図をくれ」というと、「400Bならある」と再提案。「う〜ん、300Bは？」との最後の粘りも、ここプーケットには、そんな安い宿はないだって。まあ時間も遅いし、探すのがめんどくさいから400Bで了解。ついでに、ホテルからの送迎付きピピ島行き船チケットを購入する。



### プーケットタウン散策

旅行代理店から宿までミニバスで案内され、着いた先は想像以上に立派な建物のホテル。重厚なカウンターでチェックインし、旅行代理店を通すとさすがにいいホテル、ラッキーっと一人喜びをかみしめる。

チェックイン後、フロントのお姉さんがどうぞと指すその先は、ホテルの階段とは違う裏口方面。「えっ、こっち部屋ないですよ？」と聞きなおすと、「いや、そっちだから」と言われ、言われるままにホテルを出て裏に回ると別のホテルが出現。それもかなり年数を経た。なる程ね、そりゃそうだなと納得しつつ、人気のないホテルへ移動と

いうことに。でも400Bって結構いい値なのよ。内装はそれなりだけど、バス・トイレ付きで、トイレにはティッシュも完備。思わぬ贅沢な環境に身を置き、すっかり満足したわけで。



左：立派なホテルの裏手に現れたホテル

右：ベッドに上にあるのが、この旅の荷物になる。

### 夕食&ナイトマーケット散策

さて、初日の夕食はと考えると、無理のないフライドライスに。つまり炒飯。唐辛子を加えて初日から胃腸を痛めつける覚悟はなし。長い旅の始まりですから。

ナイトマーケットは、街を散策しながら偶然見つけた市場。外国人が少なく、地元の人の買物所みたい。食物・果物・服等々ちょっとしたスーパー並みの屋台が立ち並ぶ。人々の熱気を感じられるそんな雰囲気が好きで、いつものように人ごみにもまれながらマーケットの中を歩き回る。



左：惣菜、生鮮食品、果物等多くの店が並ぶナイトマーケットの様子  
右：タイに来たら必ず食べる、屋台でのソーセージ。肉の旨みと酸味が絶妙にマッチし、懐かしい思い出をよみがえらせる。この後もまた訪ね、雑談をするようになったおばちゃんを。

## (5) 12月26日 ピピ島入り

○いざピピ島へ

迎えのミニバス

昨日予約したのが、朝8時にホテルにバスが迎えに来、8時30分の船でピピ島へ船で行く便。腕時計の目覚ましを7時10分にセットし、23時前に就寝の万全体制。

6時45分には自然と目が覚め、さあ支度の準備。目標を7時45分に設定し水シャワーで気合一発。荷物を整理しなおし、石鹸一つを拝借、部屋を出たのが7時40分。う～ん、完璧予定通り。ホテルのロビーでチェックアウトし、さ一時間の確認ってロビーの時計を見たら6時45分。だ一、昨日の時差調整1時間間違えてた。どうりで周

りは暗いし、昨日夜7時に行った飯屋も人がいなかったのね。ちょっと気になったけど、多分大丈夫と確認しなかったのが……。まあ、1時間早かったんだからよしとしよう。

せっかくだから、朝飯でも食べようと、街の散策に出かけることに。朝7時、さすがに店はシャッターを下ろし、聞こえるは、通りを走るバイクと車のエンジン音。しばらく歩くと飯屋は見つからず、こりゃ、コンビニでパンと行くかなと妥協案を検討。なにせ空腹での乗船は、絶対に酔う自信があるもんで。



朝のプーケットの様子

## 朝食

適当にぶらぶら歩くと、一軒の飯屋が開店作業中。店先の棚に並ぶ米麺から、体に優しいスープ麺がいただけそうだと確信。気さくなおばちゃんに値段を聞いて、魚ミンチ入りを一つ注文。しばらく待って出てきたのは、おかゆだったものの、まあいいかと。で、味は……。こりゃまじでうまい。チキンスープか？ あっさり味にしっかりと旨み

がある。パクチー（香草）と千切りの生姜が適度なアクセント。アイスコーヒーを付けての30Bに大満足。



### 港へ

タイの約束はあてにならないからと、7時30分にホテルに戻り待機することに。ロビーで日記を書いていると、さっそうとお迎えが。あら、もう？って時計をみると、7時45分。ほら、これだから約束なんてあてにならん。さっさと帰って来て大正解と。

いろんなホテルで人を拾い、船着場へ到着。8時30分、潮風を浴びつつ、快適な船旅へGO！



左：ピピ島行きの船、右：港から離れた様子

○ピピ島入り → 津波 → 山中避難

### ピピ島入り

乗船1時間経過し、ついに海一面だった景色に島が見えてきた。いよいよ待ち焦がれたピピ島入り。さあ、どんなバカンスを過ごそうか。気持ち高ぶる一瞬だ。



港というか、栈橋に降りて見えるは、美しい海。

そう、これを求めてやってきたのよ。

イメージが具現化する瞬間、たまりませんね。





## 宿探し

午前10時トンサイ湾到着。ホテルを探すため、客引きと交渉。「HOW MUCH?」「800B」「それはない。300Bのとこない?」「そんなとこない。代理店で聞いてみな」と押し問答を繰り返した後、代理店で交渉に切り替え。

「300Bで探してるんだけど」「そんなのあるか。年末休暇中だぞ、ただでさえいつもより値が張ってんだ」と相手にもされず。まあいいか、代理店を通さず宿に出向けば安いところがあるだろう、と港を離れ街中へ。

とは言え、ピピ島訪問は6年振り。当時の記憶を頼りに勘で動くから、いつのまにか知らないところをずんずん奥へ。歩き続けてもどこにも代理店はないし、宿自体も見つからずどうしたものかと考えていると、建物の中から「宿を探してるのか?」と声をかけられる。なんとその建物は宿で、「そう」とあっさり返答する。

吹っかけられたら断るつもりも、ちっとも宿が見つかりそうにない状況に、500Bは覚悟。「いくら?」と聞くと、350Bでいいとか。ほらね、ほらほら、直に交渉すれば安いよ。バス・トイレは共同だけど、部屋を見ると予想以上に立派。「ほんとに350Bでいいの?」って確認すると、隣の人に聞かれちゃまずいからって、「シー」というジェスチャー。どうも特別値引きみたい。海辺から奥まったところにある宿だし、客もそうこないだろうなど。遠くまで歩いてよかったと幸運に感謝。



LUG GUESTHOUSE外観

地図で場所を確認し、ちゃんと戻れるよう名前を確認し外出へ

## ピピ島散策

さっそく部屋に入り、短パン・サンダルに着替える。早朝からの行動で、ようやく落ち着ける場所への到着。部屋での一服を考えるも、ピピ島での限られた時間を考え、さっそく行動に移すことに。外出で考えるは、まずは持ち物。

クレジットカードはどうしたものか。悩むが、しばらく使う予定がないし、取られたら嫌だから、バックに鍵をかけ保管。ダイビングを予約しようとCカードを持ち、現金少々・ガイドブック・デジカメ・メモ帳等最小限の持ち物を布バックに入れ散策に。

まずは、海を見に浜辺へ出かけよう。後は、ダイビングショップで状況を聞いて予定を立てようかなと道を進む。

## ○津波被災記

### 津波第1波（10時30分）

大きな船の形をした飲食店とその横を通る山方面への坂道を左手に見、少し進んだあたり。そう、宿から4、50m歩いたあたりで、港方面から猛ダッシュで何か叫びながら駆け上がる地元の人々と出くわす。鬼ごっこにしちゃ何かおかしい。最初の感想がそれ。

その全身から溢れ出る緊迫感が、身の危険を感じさせる。逃げる人々の後を追いつつ、山の方へ坂道を必死に駆け上がる。後ろから聞こえるのは、建物を切裂く音と得体の知れない「ゴー」という唸るような音。

坂道の終点となる山の麓から見えた景色。海にのまれた街の様子。「津波だ」一瞬で気付く。どこかしこで聞こえる big wave との声。一瞬にして街がのまれていっている。

人の悲鳴がこだまする。

バキバキと家が崩れる音がする。

一瞬の出来事。目の前の物体が、引き潮とともにあっという間に海の沖へ。



左：波にのまれた海辺付近の街並み



右：避難し、津波の様子を見守る人々

### 第一波直後

周りで聞こえる女性の泣き声、子供を捜す父親の叫び声、お互いを抱き合い動揺を抑えようとする仲間・家族、呆然と目の前の出来事を眺める自分。ある者はその場にたたずみ、ある者は元の場所に戻り、ある者は浜辺に下り状況を確認しに行く。

津波とは、必ず2度来るもの。それもより大きいのが。日本で得た知識を判断材料に、現状を見守るため山の麓の道で、しばらく様子を見る。



津波直後、一気に引いていく波により崩れる建物

### 津波第2波（10時50分）

第1波20分後。それは、大きな水音を立て戻ってきた。上にいる者が、下にいる者に叫ぶ。「big wave が来たぞ」。

一度で終わらないその現象に、得体の知れない恐れを感じ、より安全な場所をと本能が求める。周りの人達と、道なき道をかき分け、ただ上を目指し山を登る。数分後、山頂と確信できるその場へたどり着いた時、不安の中にできることはやったという満足感と、もうこれ以



上はどうしようもないという諦めから、心に落ち着きを取り戻し、体を休め待機することにした。



第2波数十分後、山頂付近は避難した人でいっぱいとなる。

### 津波第3波（11時40分）

第3波が来たという話は聞かない。第1波から1時間。これで落ち着いたのではないかと一人考える。11時40分過ぎ。突如ざわめきが起こり、周りの人々が一斉に立ち上がる。あきらかに身の危険を感じさせる緊迫感。津波が来た。下から伝わる動揺が、山頂まで届いた時だった。

これ以上の避難場所はない。どうしようもない。それでも生きるためにどこかへ逃げようとする。生命の危機に体が反応する。焦る気持ちを落ち着かせる。

被害が及ばない事が確信できた時、再び自分の居場所で体を休めることに努めることとした。

### 出会い（12時10分）

周りの情報をどうやって仕入れるか。タイ語は分からない。基本は、五感を研ぎ澄ませ、周りの空気を感じ取る。身の危険はそれで対処。詳細情報は、欧米人の英会話から。だいたいの様子は分かってくる。ただ分かっているつもりのところも・・・。

そんな中出会ったのが、ルーマニア人女性ラウディアさん。たまたま自分が座っていた場所の前にいた欧米人グループの一人。日本の大学に留学中ということで、日本語・英語ともにペラペラ。「日本の方ですか?」と声をかけられ、お互い話す。

これがほんとに助かった。詳細な情報を仕入れる。「何が起きたのか?」とまず質問。インドネシア付近で今朝地震が発生したというニュースを、友達がテレビで見たという。それで津波が来たのだらうとのこと。津波は地元の人にとっても、欧米人にも経験がない。これからどうなるかは分からないという。

これで、一つの疑問が解けた。その後地震が起きたかどうかは分からないということなので、いつ津波が来るかは分からない状況。やはり山から下りられないことは確かなようだ。



日本の国立大学留学中のラウディアさん。その後も色々情報をもらい、大いに助かる。結局下山前に分かれて、その後行き違いになったけど。

### レスキューボート配置（12時30分）

周りが騒がしくなる。何が起きたのか？ラウディアに確認する。レスキューボートが島の周りを囲んだという。津波で海に流されても、拾ってもらえる。海に投げ出された後の対応は、一番心配していたことであり、大きな安堵を得る。

### シグナル発信（13時10分）

にぎやかなざわつきと共に、喜びの表情が周りで見られる。地元の人達が何かを叫ぶ。どうやらヘリが上空を通過しているとの情報。山頂の自分たちの存在を知らせるため、木によじ登りシグナルを送っているのだ。そのシグナルが無駄なことと気付いた後は、もうヘリの音にも反応はなかったが。束の間の、周囲が明るくなった出来事だった。



### 避難民増加（14時00分）

下から人が山頂に上がってくる。けが人が多い。はぐれていた人達との再会も見られる。どうやら、ダイビング等海上に出ていた人達が戻ってきた様子だ。人が増えたことに伴い、平地を増やすべく木を切る。どこからかのこぎり刃を持ち出した欧米人が開拓していく。

アメリカ人だろうか、彼らのシェア意識というのは驚くほどすごい。公平・平等に。自分の命がかかっているのに、皆で助かる方向を選ぶ。正直自分の行動は、自分が第一の判断。命の危険がかかっているのよ？欧米人だけ、白人だけ優先するわけじゃない、その価値観に素直に敬服するだけだった。自分がしたこととは、持ち歩いていた水着を女性にあげただけ。ビキニ姿で石や切り木のある地面に直接座り困っていたから。自分の身に影響のないささいなシェアだけだった。

彼らは、また情報量もすごい。どんどん手に入れた情報をシェアし、皆がどうしたらいいかを検討している。その情報を仕入れる口があったからよかったものの、とにかく情報が無いというのは、不安ばかりが増し、嫌な気分だ。



気を切り倒し、平地を広げる欧米人達。

### 飲物到着（14時15分）

街から飲物を運んできたようだ。スプライトやジュース等どんどん飲物が回される。水はない。食物もない。

### 状況確認（15時30分）

欧米人の中で情報のやり取りが活発になる。新情報でも入ったのか、街にいた人達が島を離れず、山頂へやってくるのはなぜか？、迎いの船が着てもいいはずだ、船で脱出させないのはなぜか？、津波は予測できるもの、まだ来る可能性はあるのか？

自分の疑問も併せ、ラウディアに現在の状況を確認する。助けの船は来ているが、波が安定しておらず港に入れない。だから自分達も下に下りられない。しばらくこの状態は変わりそうにないという。日没以降の行動は考えられない。今日中に島を離れることは困難と考える。

### 大移動（15時40分）

人の移動が始まる。狭い場所に密集しているためか、他に余裕のある場所があるためか、理由はわからないが、半分の人を移動させるという。この場所より安全ではないがということ。不必要に動く気はない。第一荷物を取りに行く必要がある。他の場所に移動し、自分の居場所がわからなくなることだけは避けたいから。

### 下山（16時30分）

下山決意。目的は荷物の確保。津波発生4時間後に一度下山を考えたが、周りの落ち着かない状況で躊躇。6時間経過したことで、一応の落ち着きは見られたと判断。新たに地震が発生したとの情報がないことを確認するが、確信は得られず。地元民は何人かおりにいるようなので、様子を見ながら下山。滑りやすいサンダルのため、急斜面に何度も足元を取られるも、枝をつかみながらなんとか下りる。

山の麓付近で日本人家族と会う。避難後初めて見かけた日本人。アイルランドツアーに出かけ、帰って来たらこの状況だったとか。海の上では津波は全くわからなかったようだ。津波がきた時の状況、現在持っている情報を教える。彼らの情報では、もう一度津波が来るといふ。下に行かない方がいいという忠告も。日が暮れる前、今日中に荷物を確保したいのでと先に進む。

場所はだいたい見当が付く。目で見ただけの津波の印象と、海から少し離れた宿の立地、荷物を置いた自分の部屋が2階にあるという状況から、宿を見つければ、すぐに荷物は見つかるかと判断。街が見えるに従い、治療中のけが人、横になる人の数が増える。逃げてきた道に戻ると、メインロードに建物が崩壊し行き止まりに。想像以上の被害を目の前にし、周りの景色をしばし呆然と眺める。



左：行き止まりの道。ここを駆け上がり逃げてきた。

右：道がない。斜面づたいに横に移動。想像と全く違う被害状況。建物が全て壊れて、見えるはずのない海まで見える。



全ての建物が崩壊していた。

とにかく宿を探すことに。がれきを乗り越え、可能性が高い付近を探索。建物の姿かたちは全くない。ただ、崩れたバンガローの数々が横たわる。周りを歩く地元民に聞く。「LUG GUESTHOUS

Eはどこか？」皆その宿の場所は知らないという。部屋は2階、宿がわかれば荷物を取れるかもしれない。がれきの上を歩き回る、青いバックパックを目指して。中身が飛び出た青いバックパックを見つけるが、よく見ると違う。どこか安心。宿と思われる場所を中心に、周辺を探す。



この辺りが、たぶん宿ではないかと。



元宿の周辺から、対面の山側を写す



幾重にも積み重なっているがれきの下を探せる状況ではない。歩ける平地へ下り、下から様子を見る。段差を超える。2本の柱が行き手を阻む。やはりあった。死体。上半身はがれきの下へ、胴から二本の足が地上に出た、地面に突き刺さった状態。直視できない。よけて通る。

けが人か、死体か、地元の人が担架に乗せ運ぶ姿に遭遇する。荷物どころではない状況をひしひしと感じる。津波が来るかもしれないという思いが常によぎり、心の余裕を奪う。

上にいる人が叫んだら、どんなことでも山へ向かわねば。目の前のがれきを乗り越えられるのか？仲間同士で呼び合っている声にも自然と反応する。少し離れたがれきの上へともう一度登る。足元を確認したその下に・・・、また硬直した人の姿。

荷物が見つかる可能性は明らかに低い。命があったことに感謝し、無理やり自分を納得させ、山に戻ることを決意する。

### 山へ戻る（17時30分）

山を登ると、下山中会った家族が山頂方面に移動していた。下の状況を話す。歩き回り汗びっしょりな姿を見かねてか、水500mlを一つもらう。これは助かった。持っていた水は、節約して飲んでいるがそう残りはない。とにかく水分が絶対的に不足している。スナック菓子おむすび山を一袋もらう。朝乗船以降何も食べていない。本当に助かった。今後一晩山で過ごすことを考え、計画的に食べることに。

日本人家族と話していると、一人の日本人が話しかけてくる。「父

親と離れた日本人の12歳の子供がいる。非常に心配しているが、何か知らないか？」と。上にいたが日本人は誰も見なかったと伝える。

（1月1日16時ここを書いている途中にニュースでその父親の死を知る。複雑な気分だ。）

ピピ島には多くの日本人がいるはずなのに、なぜ見かけないのか。皆で不思議がっていたことだ。山の中腹の今いる場所は、蚊が異常に多い。もう少し上がれば少ないからと、上の平地へ移動する。

### 再び山で（18時00分）

限られたスペースから、再び一人でいることに。山頂の平地では、既に枕・タオルケットが配られた後。街のホテルから運んできたと思われる。タイの夜は寒い。羽織るものは諦め、地面に横になる。しばらくたって、新たに布類を持って上がってきた人達が、持っていない人に配り始める。すかさずアピールし、シーツを手に入れ一安心。そしてぬぐいきれない不安を感じたまま、日が暮れる。



日が暮れるのを眺める人々



### 山での夜更け（19時00分）

日が暮れて、横になる者、周りに集まり話をする者がいる。日本人家族と少し離れた、欧米人集団の横に一人分の平地スペースを見つけ、寝床とする。枕の代わりは、サンダル。地面は土。上半身と足元をシートでくるみ、寒さ対策。根元が残った木、無数の枝、石ころ、緩やかな斜面、どれもが正確に背中へ情報を伝えてくれる。痛みを感じない方法はないかと姿勢を変えるが、ほとんど効果はなし。とにかく横になり体を休めることを最優先とする。今夜は月が明るい。薄ぼんやりと見える周りの景色が、心を落ち着かせてくれる。

20時頃。しきりにヘリコプターが通過する。ここの存在をアピールしろ。そんな声上がる。懐中電灯を持っている者は、空を照らし、カメラを持っている者はフラッシュを上空にたく。ここに人がいるんだ、そのことをアピールするために。

### 睡眠

0時から0時30分、1時30分から2時、計1時間意識のない時がある。とにかく寝られる状況ではない。蚊の飛ぶ音が一晩中耳元で聞こえる。シートを耳までかけるがいなくなならない。隣に吸う奴いるじゃん。蚊は、好みにうるさいらしい。それだけではない。一瞬にしてフルモードに入れてくれる目覚まし、準備されていた。

### 暗闇の出来事（19時30分～）

日が沈み、辺りが暗闇と化していく。誰かがろうそくに火を灯す。当然の指摘、「no fire!」火をつけるな。日中30度を超すこの乾季の時期のタイは、雨が降らず乾燥しきっている。落ち葉は乾き、ちょっとした動きで土埃が舞い上がる。昼間にも煙草を吸う連中をどうかと思ったが、夜はそういうレベルではない。

### AM3時00分

最初のぼや。皆が寝静まったその時、一斉に皆が立ち上がる。何が起きたかは分からないが、場の空気が身の危険を感じさせ、その場から逃げる態勢をとる。暗闇での異常な緊迫感。確認の声を掛け合う。ぼやだという。消し止められた。「sit down & take it cool」落ち着くよう皆で声を掛け合い、一番恐ろしい暗闇でのパニックが起きないように努める。皆元の場所に戻り、休みの態勢に入る。一瞬のとっさの行動に、蓄積された疲れがどっと押し寄せる。否応なしに疲労を意識させられた。

### AM4時00分

再び繰り返されるぼや騒ぎ。「no fire!」皆が言う。煙草か？まったく理解に苦しむ。ほんとにしゃれにならん。火が付けば一瞬。島ならではの強い風が吹いている。風下はこちら。下り道は一本道。パニックで皆が必死に逃げることを想像する。そこには地獄絵図が浮かび上がる。本気で逃げるルートを考えなきゃならん。今いる場所から近い風下となる下り道か、火を超えた風上か。

#### AM4時30分

ぼやだけではすませてくれない。次の目覚まし、スネーク。寢床の奥は、やぶがありトイレとして利用している人もいる。その程度の事はどうでもいい。2度目のぼや後、しばらくするとガサゴソと音がし始める。ふ〜ん、トイレね。まあ、さっさと済ませてねと仰向けで睡眠。ガサゴソが続く。別に気にならない。隣の欧米人に呼ばれる。「何か明かりはないか？」

デジカメのスポット閃光。赤外線だが、明かり代わりにと辺りを照らす。寢床の真後ろの音のしていた方向に一匹の蛇を発見。直系4, 5cm、立派過ぎ。もう一匹いるらしい。じっくり見るが分からない。どうせ音がするから分かるでしょとあまり気にしないことに。もちろん寢床は、藪から少し離れたけど。しばらくして、4, 5m離れた違うグループで蛇騒動。さっきのうちのかな？ご愁傷様です。

#### AM5時30分

1時間ごと2回あったぼや騒動にも飽きた。どうせまたあるんでしょと、背中も痛いし、体育座りで顔を伏せ、シーツを被った態勢で体を休める。

はい、またきました。ぼや騒動。しゃれじゃすまないんで、何度でも立ち上がり逃げの態勢をとる。もう3度目だぞ、何やってんだ。後1時間もしないうちに日が昇るから。いいかげんにしてくれと、あきれた空気となる。

#### 夜明け（6時00分）

空が次第に青白く変化し、ぼんやりとした明るさに包まれる。皆が上半身を起こし、無事に朝を迎えられた喜びを安堵の表情で空に返す。これで帰れる。長い夜が終わりを告げた時だった。

#### 下山（6時30分）

周りを認識できる明るさとなった時、準備を整え下山へと向かう。欧米人が固まり情報を交換している。彼らの情報はかなり正しい。共に下りようと日本人家族に誘われる。その前に正確な情報を把握するため、再びラウディアから情報を聞き出す。

港に船が来ていて、一つはプーケットへ、一つはクラビー行きだとか。とにかく帰れる状態には間違いない。クラビーなら16時にバンコク行きのバスがあるとの話を聞く。パスポートはない。どうせバンコクの大使館へ行く必要がある。バンコクで会おうとラウディアと話し、別れる。日本人家族に状況を伝え、下山を開始する。

山を下りたところで日本人家族と別れる。お互い宿に荷物を探しに行くために。港で会おうと約束し、もう一度自分の荷物を探しに行く。

やはり辺りは全壊。どうしようもない。この先は、昨日死体が……。ちょっと先には進む気にならない。周りの様子を確かめ、そのまま港へと向かう。



朝の景色



何事もなかったように、静かな朝の静かな海だった



### 港へ（7時00分）

記憶のあるメイン通りを抜け、港へ向かう。潰れた家屋が、その被害を物語る。障害物競走のように、家屋を乗り越え一路港へ。



街のメイン通りを埋め尽くす、倒壊した建物や、押し流された家具



栈橋に向け人々が集まっていく



### 船出発（7時56分）

船着場へは早めの到着。栈橋の先には数人の人が集まり、隣に布を被せた遺体が数体置いてある。しばらく橋の中程で日本人家族を待つ。

どこからともなく人が集まり、いつの間にか栈橋一帯は、数百人規模の人々で埋め尽くされる。こりや会えそうにないなど諦め、乗船を優先。タイ人優先の乗船に少々批判が上がるが、船の規模も大きいので

でじき収まる。最初の船は、プーケット行き。この際どこでもいい。とりあえず次に動ける経路なら。

定員以上に目一杯乗せる方法にかなりの不安。席に余裕のある地下の船室は万が一を考え避け、船上の空いている席を見つけ確保。栈橋に多くの人を残しながらも、第一便が出航。7時56分、ついにピピ島から脱出した。



## (6) 12月27日 ピピ島脱出&帰国手続き

### プーケット到着(10時15分)

少しスローペースに感じる船は、約2時間後、10時15分プーケットの港へ到着。助かった。そう確信した一時だ。迎えの人が大勢いる。日本大使館の人でもと国旗を探すがない。まあ、そんなものかと次に向かう。

下船して待っていたもの。それは、タイの人々の温もりだった。水、果物、炊き出しの食事。何も期待していなかっただけに、感動した。人々の優しさが、心からの心配が表情から伝わってきた。24時間振

りに遠慮なく飲める水、味わえる食事。金のない今後を考え、パンと水を余分にもらう。

まずは、プーケットタウンまで行きたい。そこからバンコクへという計画。バスがプーケットタウンまで無料で運んでくれるという。着いた先は、別の場所だったけど。



### プロビシナルオフィス(被災者緊急避難対策所)(11時00分)

バスというか、改造トラックの荷台に乗せられ着いた先は、公園内にある建物。各国のテント付近で、仲間の所在を確認する姿が見受けられる。



建物入り口の様子と行方不明者の一覧表。

建物内部では、各国の臨時大使館が設けられ、様々な登録ができるとか。これは助かる。バンコクまで行く必要がなくなる。様々な外国人のいる観光大国、その対応に感心する。案内所で日本の場所を聞くと、日本人スタッフを紹介され、手続きの案内をしてもらうことに。パスポート等紛失証明書の作成、大使館の人との今後の対応の相談、出国用手続き書類の作成、写真撮影等2時間かけ手続きが終了する。



左：日本大使館臨時領事部



右：出国用手続き書類作成所。写真撮影と指紋採取が行われたが、効率が悪く長蛇の列が続く。

### A & A (14時30分)

日本大使館臨時日本領事部が設けられたのが、プーケットタウン外れの旅行代理店A & A。タイ日本人会の拠点でもあるようだ。お金のない人はここで送金方法等教えてもらえ、渡航書も作成できるということで訪ねる。イミグレーションからタウンへ無料バスが出ていることは、後から知った。残金が限られているから、歩いて目的地へ。結構な距離と道に迷い、50分後の到着。疲れた体には、ちときつい。

### 今後の対応方法

ここで受けたのは、日本のくだらないシステム。

### 現金送金方法

駿河銀行を利用し、プーケットの金融機関に送金する方法のみあるという。駿河銀行は、新宿と大阪に店がある。そこから振り込む以外に方法はない。いかにも期待持たせてなんでもない。地方在住者には関係ない話みたい。一生懸命新宿から振り込めるからって強調するが、誰が振り込み行くのとはなはだ疑問。結局無理ってことでしょ？本当にこっちの状況分かってるの？という気に。

### パスポート紛失対応

ポケットに残っている金は、900B。これが最後の頼みの綱、これをどう活かすか。この希望を一瞬にして崩してくれたのが、次の事務説明。パスポート紛失時には、帰国のため渡航書が必要となる。渡航書作成手数料が902Bで、個人負担だとか。ばかにしてるの？金も荷物も全てなくして身一つでようやくたどり着いた先で、日本に帰るための手数料をとるだって？全財産900Bをたかが日本に帰るための費用にかけられるわけないだろと捨て台詞をはき、臨時領事部を離れることを決意。

400Bあればバンコクへバスでいける。バンコクは、なくしたチケットの出発地でもある。バンコクに行けば大使館もある。この状況でまともな判断ができないのは、権限がないから。普通に考えて、例外的に金を貸すとか手数料を無料にするとかできるだろ。おおもとの大使館をくどき、泣き落としてやると意気込む。いざとなれば、バン



コクなら日本人も多い。必要な帰国費用を日本人から借りられる。金のあるうちに行くべきと判断。建前論しか言わない領事部&ちっとも役に立たない日本人会なんて切り捨てて。

「もういいよ」と、臨時領事部を出ようとした時、イミグレーションで会い一緒に行動していた日本人一家から声をかけられる。クレジットカードをなくしたなら、緊急でお金を貸してもらえるかもよと。

VISAに連絡。カード再発行は難しそうだが、現金ならなんとかなりそうな雰囲気。手数料1万円だというのが、かまっていられない。もちろんすぐ対応を求める。航空券再発行が受けられないケースを想定し、4万円を希望。でいつももらえるの？まずは三井住友銀行で承認をだつて。そんなところからの話しですかとちょっと興ざめ。こりゃお役所仕事。当分時間がかかりそうな雰囲気。一応遅くとも明日の朝に受け取れるとか。まあ、よろしくね。

### 航空券対応

チケットは、もちろん荷物と共に紛失。新たに購入するしかないと言ったときに気付いたのが、ほんとに偶然持ち歩いていた、航空券を購入した旅行会社の電話番号。ネットのチケット情報を印刷し、2枚目の裏側に自分で立てた旅行計画を記入していた。プーケットから乗る予定だった電車の時刻を書いていたから、ダイビング等ピピ島でのスケジュールの調整に必要だろうと持ち歩いていた。その表に印刷されていたのが、旅行会社の住所と電話番号。これが今後の事態を好転させた、奇跡のペーパーとなる。

旅行会社の連絡先へ電話。チケットは9割諦めていた。もともと格

安チケットは、紛失したら再発行不可。電話で聞くと、事態が事態だしチケットは活かせるだろうとの答え。金のない状況を考え、日を早め、プーケット発で調整してみますだって。とにかく渡航書NO.が必要だから、分かったらすぐ電話をと24時間受信可能な電話番号を教えてください。

チケットを活かせるだけでも感謝なのに、日にちを変更し、出発地をプーケットに。本当に可能なの？だって今やプーケット空港は、外国人の一大脱出拠点。大勢が空き便を探し右往左往しているのに、ほんとにとれるの？という気持ちと共に、それを自信たっぷりにやっつてのけようというその会社に半信半疑の期待を。

### 外務省公式見解

領事部の新たな発表。イミグレーションで1時間近くかけ並んで撮った証明写真は、日本の渡航書とサイズが違うから使えないだって。なんでそんなに融通が利かないの？名前を書いたプラカードを持って写っている姿がよくないからとか。なんのためにどの国の人も並んで撮ったのか。他の国じゃ絶対この写真で書類作ってるはずよ。さすがにこれは、渡航書のサイズに合わせ写真を切り取ることで妥協を得る。金のない状況で、自分で店を探し写真を撮ってこいとは、手持ちの写真がある中、神経を疑う。

待ちに待った20時前。渡航書作成の準備が整い、順番に手続きに移る。お金がない人は、保証人を確保した上で借用書を作成し、滞在費を貸してくれることに。滞在費だけ、日本に着いてからの交通費等はだめですとの説明。はいはい、そうですね。建前はいつでもいいで

す。借用の条件に載っているんでしょうね。こっちは、日本に帰り、家まで着かなきゃいけないの。福岡に着いてもしょうがないの。貸してもらえる分を使い分けるから、何でもいから貸してくれと。

借用書付きで6000B。保証人の存在を電話で確認。返済時は3000Bの手数料を上乗せし返すこと。そりゃもちろんそうしますよ。借りた早々6000Bから渡航書作成手数料902Bをとられ、これこそ滞在費以外の出費なんだけど・・・、とその矛盾に疑問を覚えつつ。6000B借用、建物を出るときには手数料引き5000Bになっているとは、まるで悪徳金融屋なりと日本の素晴らしい制度に感心。

この災害で、渡航書発行手数料が無料にならなかった理由。外務省公式見解。「前例がないから」お前らばかか？「上で決まったことだから」なんじゃ、そりゃ。大使館があるのはなんのため？より近い場所で現状を把握し、状況を伝え政府・本省が判断するためでしょ。多くの人が亡くなり、荷物を紛失し、命からがら必死で逃げてきた現状をどう伝えたら、前例がないからって結論になるの？体を張ってでも、皆の話を聞いた大使館が、それはおかしいって抗議すべきものでは？上で決まったことですから。決まる前に何をし、誰がどう決断したかぜひ気になるね。外務大臣をはじめ、政府関係者の皆さん、言葉だけの同情は絶対言わせませんよ。

何人か大使館の人に詰め寄っていたけど、当然よね。だっておかしいもん。結局、渡航書発行に要した時間、8時間。いつのまにか、22時30分。イラク戦争では苦勞されたことでしょう。砲弾が飛び交うバクダッドで、荷物を詰め大使館へ飛び込んできた人へ、長時間かけての渡航書作成。手持ちの金のない人は、保証人確認後滞在費のみ

貸付。書類作成手数料は別途徴収とは。いやー、前例がないってんだからその苦勞が想像できますな。生死をさ迷う状況でのパニックの抑え方をぜひ勉強させていただきたいとこ。



A & A (日本大使館臨時領事部)

日本時間深夜1時。

日本の旅行会社に留守電で渡航書No. と、29日から30日のチケット発の便をと希望を伝える。ちなみにVISAは、サービスセンター回線が混雑して全く電話が通じず。明日朝には受け取れるとの説明もあったし、これもなんとかなるだろうと一安心。



これぞ渡航書。右イミグレーションスタンプは29日付。

注意書きには、この渡航書の発行により所持人の旅券は失効しましたとの記載。

### 出会い（in A&A）

基本海外旅行中は、ほとんど日本人とは話をしないが、この旅は違った。見かけて声をかけられ、声をかけた。お互い同じ危機を脱出し、同じ困難を抱えているという共通点があったから。情報共有・提供のため、積極的に話をした。その被害の状況も知ることができた。

#### イミグレーションから行動を共にしていた日本人家族

津波の時は、プーケットの浜辺に。突然波が引き、浜辺には魚がたくさん跳ねていたという。タイ独自の現象と思い、地元の人達と喜びながら魚を取って遊んでいたとか。するとしばらくして、大きな波が来たという。小さな子供2人を含む4人家族皆無傷だったので、運がよかったのだろう。

#### けがをした日本人

宿をチェックアウトしたところで津波が来たという状況となった。急いで部屋に戻ったが、波が部屋の中に押し寄せそのまま窓から部屋の外に流された。抵抗できずただ波に流されていると、椰子の葉があり必死で掴んだ。それを手繰り寄せ、椰子の木につかまり木の上に避難したという。

#### 夜遅くにA&Aに来たグループ

ダイビングショップの店員と客である。津波の時は、ダイビングに皆で出かけていた。海の中では全く異変を感じず、戻る途中海にごみがたくさんあり不思議に思った。ピピ島に戻って来たら、港に近づけない状況だったという。街に行っても全て崩れ入れないというから、別の安全なビーチに下りプーケットに避難してきた。荷物は探しに行ってもおらず、ダイビングに出たままの荷物のみだという。何年もこちらで生活しており、その思い出等入れた荷物がなくなったのが残念だと。彼らには、ピピ島での情報を教えておいた。皆が避難しているうちに、無事な荷物も地元の人があさったという話を。あってももう残っている可能性が低いだろうし、きっぱり諦めた方がいいと思うから。

48年生まれの会社員。31歳くらいか？彼は、さっぱりしていて、いい男。2週間くらいタイ周辺を旅しているみたい。毎年年末に休みを取るから、周りはまだ諦めているんだって。ここに集まってきた人達が、いろいろ対応に不満を言う中、それを否定もせず肯定もせず何事もないようにいる。皆が集まって楽しく話しているような雰囲気でも自分は持っているという。そういう人好きでね。

結局その場じゃその人といろいろ話をしていた。先に渡航書ももらえて、じゃあお先って帰ろうとした時に、飲物来たからどう？ってビールを一杯。なんか仲間同士の杯みたいで嬉しかったね。旅に出ているいろいろな人と話せて、この旅の本当に意義あるポイントでした。

## GUEST HOUSE

まずは、プーケットでの宿泊先を確保する必要がある。渡航書作成待機中に街に出、偶然見つけた宿。タイ航空プーケット支店の前で、掲げた看板にはGUEST HOUSEの文字が。こういうところは安い。直感が働く。

入って聞いた値段は、250B。うん、これは十分納得。でも少しでも節約を。「ピピ島で金から荷物まで全てなくしたんだ。まけてくれ、200Bでだめか？」と交渉。「それは大変だった。でも差額分は自分が負担しなくちゃいけないから」と同情の目を向けられつつ、申し訳なさそうに言われると、無理も言えず。250Bで了承し、宿を確保した。

結局宿に着いたのは、渡航書を受け取り、少々のお買物後の23時過ぎ。そこから、ここ2日着続け山での土がこびり付いたTシャツ・短パンを洗濯、そして、シャワーを浴びて体のよごれ落とし。旅では、風呂場での洗濯を前提に、持っていく服は最小限。毎度、風呂場に置いてある石鹸を使いきれいに。

洗濯しながら気付いた不安。今ある服はバッグをなくしたため着ている分だけ。帰りにコンビニで肌着を一枚買ったので寝間着はいいとして、乾かなければ明日着る服がない。まあ、大丈夫でしょうと思うも、気になり途中で目が覚めるたびに確認して。なかなか乾いてないのよ。場所代え、ファンをまわし、苦労してようやく朝には生乾き。太陽が出てからは、効率よく乾かせたけど。これから、毎日宿で洗濯の日々が続くことに。



左：ゲストハウス全景



右：洗濯物を干す朝の部屋状況、上に見えるはファン

## (7) 12月28日 プーケット散策

### 航空券

まずは旅行会社アロハウエーブへ電話。お店で購入した国際テレフォニックカードを使い、国際公衆電話から。昨日残しておいた留守番電話を確認し、12月29日15時プーケット発 — 台北着。29日台北泊。30日16時台北発 — 福岡着の便がとれたとか。

はっきりいってすごい。今プーケットは、国外脱出希望者で埋まり、全くチケットが取れない状況。正直30日バンコク発も諦めていたのに。いや、アロハすごい。感動した。

## クレジットカード

片やVISA、A&Aで電話した際に聞いた電話番号は、国際公衆電話からちっともかけられない。どうやって連絡を取れというのか？街を歩きながら見つけたホテルに併設されたフォンサービス店と強引に折衝。フリーコールだから、お願いだから電話かけさせてくれとかなり強引に言いくるめ、嫌な顔をされつつ電話をする。

連絡がついた時の担当者の一言。「三井住友銀行の承認はおりた。まだ送金先のアメリカの銀行と連絡がつかない。また、2、3時間後に電話してくれ」朝一にもらえる話できて、やっとできた連絡で……。いろいろ思いはあるが、諦める。金がないと前に進めないのだから。とにかく早めの対応をお願いします。「教えてもらった電話番号は、国際公衆電話から全くかけられない。有料でいいから国際公衆電話でかけられる電話番号を教えてください」と必死に頼み、一般回線とコレクトコール2つの番号を聞きだす。金が手元にくるまで安心できん。しばらく節約して過ごすことにし、街中を散策する。

3時間後、国際公衆電話に向かう。フリーコール番号は相変わらず使えない。新たに聞いたコレクトコール番号も反応しない。一般回線、電話がつながりカードの度数は減るが、声等何の反応も聞かれない。なんだこりゃ？混雑しているからか？何度も試すが状況は変わらない。カードの度数だけが減り、フォンカード1枚目終了。

送金してもらえるかどうかわからないか状況で、国際フォンカード代300Bの出費は、非常な冒険。いや、きつとつながるはずだからとようやく捜し当てた販売所で購入。気温30℃を越える中での街中

移動に疲労はピーク。国際公衆電話の場所を変え、いろいろ試すが反応はなし。ホテルの電話からならといろいろお願いに行くが、どこも国際電話をさせてくれるところはない。フリーコールだから、コレクトコールだからと必死のお願いも、体よく断られる。

ふと、道沿いの店の軒先に並ぶ新聞を見る。ピピ島での被害がタイで一番大きいようだ。トップでそのニュースが扱われている。大変な状況の中生き残ったんだと実感する。全てなくしたことを現実的に思い出す。

何もない状況で、自分ではどうすることもできない状態で、必死で考えるがVISAへの連絡手段を全くなくした状況で、なんとか電話を貸してくれと可能性を模索し、いろいろ頭を下げ断られる状況が繰り返され、それでもVISAを頼らざるを得ない、自分に対するくやしき、情けなさで泣けてきた。というか、電話ボックスの中で泣いた。そして、もう一度だけ指示のあった電話番号全てに電話し、全く反応がないことを確かめ、連絡を取ることを諦めた。東京の事務所でこちらの必死な気持ちなんて分からないだろ。一言いってやりたいが、電話がつながらないから諦めた。

ただ、電話をしなければいけないという義務感から解放され、気持ちに余裕が生まれた。大使館から借りた金。残りで何とかやり過ごそう。VISAと調整した手数料込み5万円の請求。ああ、好きにしてくれ。好きなだけ払ってやる。その代わりに、緊急時というシステムのない、屈辱的に断念させられたお宅とは二度と関わりたくない。そう、三井住友VISAカードとは、これで終わり。





涙にくれたテレフォンボックス

### 朝食

まずは、朝の腹ごしらえ。VISAへの連絡を諦めた後、近くで見かけたお店で朝食を取る。今日こそヌードルと、米麺&あっさりスープの食事を選択。調味料（唐辛子・酢・砂糖等）を少々加え、タイらしさを演出。いや、やっぱりタイヌードルはおいしいですね。結局この店で、朝食後年賀状&日記作成と長居する。



### 街中散策

やっぱりぶらぶらと見ず知らずの街を歩くのは大好きで。特に外国ともなれば、人を見ててもおもしろい。ちょっと気になるお店をのぞいたり、街のつくりを見てみたり。外国に行くとスーパーは必見。生活に密着したその場は、地元の人々の生活スタイルを見て取れる。物価も見えるし、なかなか興味深い。

日本の製品って結構入り込んでいるもので、商品ラベルはかな文字メインで申し訳なさそうにタイ語でフォローしていたりと、こんなのでいいのかと思ったり。食品等は屋台ほど安くはないけど、一般会社員にとって生活の場なんだろうなと実感する。



左：スーパー入り口

右：スーパー内部。基本店員さんはさぼってだらだらお話し中。うん、タイらしい。

### タイ道路事情

タイは基本歩行者信号なし。皆タイミングよく車の間をすり抜け渡ってます。個人的には、結構そういうの得意で、上手にかわして渡っ

てますが、中にはいつまでも渡れない外国人がいたり。

プーケットの道は、交互の一方通行の連続で成り立っており、ところどころに円形のロータリーが設けられ、車の流れを循環させている。いつもは片方だけの車の流れを見てればいいけど、ロータリーでは全方向の確認が必須。時速は3, 40 km位だろうよ。車のスピードが早けりゃ渡れるはずないし、それなりにだけ運転する方も轢かないようには気を付けているし。危なかったら、下手に動かず道の途中で止まる。車を止まるってことはまずないけど、相手がよけてくれます。そんな適当さで事故を見ないから不思議なもので。



### ショッピングモール

連日のタイの暑さに、夏ばてモード。水分ばんばんってなんとかしのぐも、少々きつくなってきた。なんとかクーラーの効いた空間をと訪れたのは、ショッピングモール。そして、もう一つの目的が、服の購入。

明日に旅立ちを控え、手持ちの服はTシャツ・短パン・ビーチサン

ダル。これで、日本の冬に耐えられる訳がない。明日の台湾一泊も危うい。台湾での気温14度で快適に過ごせる服を考える。まずは日本でも履けるようジーパンをターゲットとする。予算は、残金を考えて1000Bまで。予算内で全てそろえることを条件に検討する。

ショッピングモールの中は、小さな店が乱立するタイらしいつくり。ブランドショップの集積とかそういう系じゃなく、地元若者の溜まり場のようなところ。ショッピングモールは2階建てで、1階にはそれなりのきれいな高級店も見られるが、2階は雑踏としたお店で埋まり、一度訪ねた店の場所がどこか分からなくなるといった、サバイバル感が楽しい。その他、ゲーセン・ボーリング場・カラオケに映画館まで併設し、若者のプレイスポットという面も。中・高生らしき制服を着た学生も多く、タイ文化の一端を研究する。

買物では、2階の数多いジーパン屋を適当に見てまわる。お店で見てまわるのは、ジーパンだけじゃなく、もちろん店員さんも。ああ、この笑顔いいな。そんな店員さんのいる店でいろいろ話し、気に入ったパンツの試着。ちょっと小さい。それならこっちは？と再び試着。あ、これはサイズもいいし、色も申し分ない。うん、これにしようと思っただけで、値段を見ると970B。って、一箇所目で予算オーバーは、さすがにきつい。

「最初試着したの600B台だったよね、値引きできる？」と聞くと、620Bに。あら、そんなもんですか。一応DIESELってブランドものだから、こりゃお得と。せっかくだから、食事に誘おうと、今日の上がりの時間を聞く。22時30分までだって。それから食事と考えると、ちときつい。「君がかわいいから、時間があれば一緒に食

事に行きたいと思ったんだけど、ちょっと難しいね」と余計な一言。照れてる顔がかわいくて、一枚写真撮ってきました。

金がないのにな？いや他を削って捻出しようと。多分に男ってそういうもんです。まあ、レストランも店を間違えなきゃそう金かからないだろうし。



ショッピングモール入り口と店員さん

ショッピングモール周辺は、色んなお店が立ち並ぶ一大買物スポット。お土産物屋から、日常雑貨まで。本当にいろいろ買いたい物が目白押しで。ただ観光客料金を考慮し、思い切った値引き交渉が必要と思うけど。もちろんそんな予算はなく、お土産は一つも買わず。ごめんなさい、ちょっと期待していた皆様。このHPの切番ゲット者に何かプレゼントしようと思っていたのに、諦めました。

### 宿（オンオンホテル）

本日の宿も無事確保。今後の移動を考え、タウン中心部にある立派な建物の宿に変更。名前を聞いて、あっ、これ地球の歩き方に紹介さ

れていた宿だと気付く。部屋を見て、ファンが回ることを確認し、即決。だって安いんだもん。共同トイレ・バスで140Bから。めんどくさいから、200Bのトイレ・バス付きファンルームを選択。これまでの最安値だけあり、ベッドは一層固く、床は心持ち傾斜、トイレはタイ仕様。いや、全然問題ないんだけどね。洗濯物干すロープもあり、大満足の部屋でした。



ポルトガル様式という重厚な門構え

### 夕食

タイ最後の夕食。タイ料理を存分に味わおうと、勢いは良かった。結局入った店は、タイ料理を扱うという中華系の店。客が多いし、おいしいだろうと。

めずらしくクーラーの効いている店に少々不安を感じ、そう、やっぱり結構値段の張る店だった。一品100Bがざら。一品3,40Bの品を2,3品と考えていた構想はもろくも崩れる。まずは、この

タイの旅に乾杯とタイのビールを注文。食事の方はというと、最安値の蟹肉入りフライドヌードル。味はなかなか良かったが、これだけで終わった夕食が寂しい。結局ナイトマーケットの屋台で、再びソーセージもどきを買ってタイの夜を満喫することに。



タイといえば、シンハービールで

## (8) 12月29日 プーケット脱出（台北滞在）

### 今後の生活費

金は限られた。後は支出を抑えるだけ。当初、ガイドブックに載った食事所に出かけたりと、ちょっとしたリッチ旅行も視野に入れていたが、完全貧乏旅行になってしまった。日本での自宅までの新幹線代を考えると、両替手数料を考慮して2000B以上は確保しておきたい。プーケット空港利用代500Bを考えると、3000Bを残すこととしたい。となると、現在の手持ち3400B。もうほとんど使えないというわけだ。

## 朝食

オンオンホテル隣のオンカフェへ。まあ、アイスコーヒーがあればどこでもよかったので。値段の張る朝食セットを避け、パンのみ10Bにアイスコーヒー15Bと格安に。手持ちの文庫本を読んだり、今日の予定を考えたりと1時間ほど長居。そのまま周辺散策へ。

プーケットタウンは、ここ数日歩き回っているので、ほぼ完璧に把握。本屋でおもしろい雑誌がないか物色するも、親切にビニールで包装された雑誌は中身が分からず。一般的なタイの流行を見るには、巷のポピュラー雑誌が一番だけど、内容が分からないんじゃ投資はできず。結構値段もいいから、開いてみたら、写真中心じゃなく、タイ語で書かれた文章ばかりの雑誌だったらねってことで。

少し遠くに出かけようと、チェックアウトをしにホテルに戻ることに。

## 再びショッピングモール

17時15分発の飛行機。チケットがないから、3時間前にチェックインに行くことは指示されたこと。14時に空港に着くために、逆算しての行動を開始。

現在11時。後3時間である。まずは、金がなくても涼しく過ごせるショッピングモールへ。商品というより、買物客を見学。いろんな人がいて、人間観察に飽きないもの。2階をうろろうしていたら、突然の異変。ショッピングモールの電気が消え、真っ暗に。どうやらこのモールだけ停電した模様。しばらくして点灯したが、ショッピング

モールでさえ・・・、なんともタイらしい。1階ドラッグストア店頭で流れるは、取扱商品のCM。外国のCMは、発想も豊かでおもしろい。しばらく釘付けとなる。

CMを見ていると、昨日ネットカフェで会った日本人と会う。チケットが取れないと嘆いていたが、どうやら30日の便を取れたみたい。日本の新聞を持っていることを羨ましがられたので、あげることに。調度いいタイミングで会ったもの。



### 再びプロビシヤルオフィス

昼時をむかえ、さらに移動。目指すは、プロビシヤルオフィス(被災者緊急避難対策所)。昨日時点の情報では、もう人が少なくなり、そろそろ閉鎖されるという噂も流れているとか。まだ閉鎖されていないことを信じ、40分ほど徒歩で移動。もしまだやっているなら、食事&飲物にありつけるはず。あわよくば、無料バスでエアポートまで。金の無い身は、もうここ以外頼るところがないもので。

一応第一の目的は、渡航書に入国スタンプを押してもらうため。無

ければ空港でもめるかもよと忠告されたのは、昨日街を散策中に会った日本人から。普通に考えて、そう問題ないという気もするが、念のため。

相変わらず30度を超える灼熱。のどの渇きに耐え、途中道に迷う欧米人2人組みの道案内をし、ようやく到着。タイ人の道案内程頼りないものはない。一生懸命なんだけど、大概間違っている。この欧米人の場合も塚が明かない様子だから、道を教えているタイ人の間に入り、現在位置と目的地への行き方を端的にアドバイス。毎日街を歩き回っているおかげで、プーケットタウンはほぼマスターしてますんで。

プロビシヤルオフィスは、閉鎖どころかまだまだ盛況。施設もさらに充実の様様。さっさと入国スタンプをもらい、情報を収集。行方不明者、死亡者共に掲示板は、大幅増。見かけた日本人が記載されていないことを確認し、日本人用のテントへ。

テントへ向かう途中でもらった食事と水を持ち込み、日陰の下でゆっくり食事。テント内には、2日前最初に連れて来られた時案内してもらった女性スタッフがおり、その後の様子を聞く。その後、今日来たばかりという日本人スタッフと対応等気になることを話し合う。予定の時間に近づき、エアポート行き無料バス乗場を教えてもらい、無事移動を開始する。

ただ飯食って、ただで移動。感謝・感謝の一言っていうか、ここに来なけりゃほんとに食事抜き生活になっていた。ほんと助かりました。





左：まだまだ盛況、各国臨時大使館

右：さらに増えている行方不明者掲示板

### プーケット空港

プーケット空港は、タイへの到着時には考えられないほどの混みよう。各航空会社のチェックインカウンターには、長蛇の列。チャイナエアラインの事務所で経緯を説明した後、チケットを発行してもらい、無事チェックイン。早めの到着で、15時30分にはターミナルの待合室へ。

あと1時間少々で乗り込みかなんて時間を気にしつつ待っていると、館内放送が。CINA646機は、バンコクに立寄るため2時間遅れの19時40分発に変更するとか。まあ、そんなもんでしょう。もとより時間通りなんて期待してないので。乗継じゃなく、台北泊なので、飛びさえすれば何の問題もありません。

出発が遅れたためか、待合ロビーで弁当とスプライトジュースが支給される。これは助かる。腹減ってたし、冷たい飲物ほしかったので。手持ちの文庫文も読み終わり、後はぶらぶらと時間を潰す。

19時40分に無事出発した飛行機で、早々出てきたのは機内食。さっき食べたばかりでもう結構。毛布を被り、睡眠タイムを経て、4時間後に台北へ。



プーケット飛行場内チェックインカウンター前の様子

脱出者でごった返す待合ロビー。弁当を食べ元気が出たところ

### 台湾入国（0時50）

タイ時間0時前。時差調整し、台湾時間1時前着。入国手続きを終え、バスでホテルへ。アロハ旅行会社から受けた指示は、入国後トランジットルームへ向かい翌日のチェックインを行うこと。パスポートじゃなく、渡航書のため本来台湾に入国できないため、特別な手続きがいる模様。それが気になり、バスに乗り込む前にチャイナ航空のスタッフに確認するが、まあとにかくバスに乗れだって。そういわれたら、そうするまで。まあ入国できたんだし、なんとかなるでしょう。

ホテル着は、2時30分。ホテル代無料は確認済み。食事が付くかどうかは不明。もちろん金は一切使えず。また使わないよう、両替せず台湾通貨を一切持たずに入国したから。まあ、食事がなけりゃ我慢

すればいいと。そんな中、ホテルへのチェックイン時に朝食&昼食券を渡され、かなりの安堵。後はドリンク。水でも入っていればと、室内冷蔵庫にかすかに期待も、やっぱりないよね。あったら？もちろん飲むよ。支払い？できるわけないじゃん。金ないんだから。事情を話せばきっと許してもらえるかなと。もしくは航空会社が対応してくれるのでは、とその程度で。

室内に入ってびっくり。なんと結構一流のホテル。セミダブルベッド×2個。テレビ付き。これなら十分暇が潰せる。朝食は9時までにとのこと。食べ損なうわけにはいかないと、8時20分に目覚ましをかけ、4時に就寝。



クリスマスムードたっぷりのホテルロビー

## (9) 12月30日 日本帰国（福岡着）

### ホテルでの行動

予定通り、8時30分過ぎに1階の朝食場へ。味は・・・、うまく

はない。ただで飲食できるんだから贅沢言っちゃいけないか。日本で言えば、ビジネスホテルの洋食バイキングって感じだけど。基本外国の食事は味が無いよね。旨みというか。ただ素材に味らしきものをつけたって感じ。旨み調味料まであみだす日本人の味覚では、少し寂しいね。

朝食後から昼食までの間に考えたこと。台湾といえば・・・、小籠包でしょう。せっかくなんだし、小籠包食べに市内に出ようとする。はい、忠告は十分承知していますよ。パスポートないんだから、外に出てはだめ。でもね～、せっかくの台湾だし。普通聞かれないでしょ、パスポートあるかって。ホテルに置いているって言えばいいし、もしだめなら知らなかったって言い張るべしと。

まずは朝食後ホテル周辺を散策。近くのコンビニで、台湾の生活スタイルを研究。ホテルのロビーで、さあ街への行き方と探してみる。「このホテルの場所はどこ？」とロビーに置かれた台北マップを見せながら聞くと、ここには載っていないとの返答。そもそもここは台北市内ではなく、違う市だと言う。あらら、それじゃ話にならん。だいたい小籠包代さえ持ち合わせていないのに、タクシー代なんてあるはずなし。ちょっと残念だが、諦め部屋で一休みすることに。

昼食で小籠包等飲茶が出てこないかなとは最後まで期待していたこと。もちろんそんなことなかったけど。でも昼食は、予想外にリッチ。肉料理もあれば、シーフードあり、いなり寿司にデザートまで各国料理が集結。かなり満足にいただく。

## 空港手続き

空港にバスで連れてこられたままではいい。その後は、パスポート紛失者は、係員に連れられ別行動。といっても単に違う入り口から入らされ、普通にチェックイン。問題が起きたのは、出国手続きで。

見慣れない渡航書で担当官が処理しきれず、別の個室へ連れて行かれる。ちょっとクラスの上の人が対応。日本語が話せる人で、いろいろ話しをする。何か問題があるのか？昨日トランジットに行っていないという弱みがある。やっぱりまずかったかなと少々弱気。

しばらくたって、担当官から説明。日本人はパスポートがあればビザは不要だが、渡航書では入国できない。次台湾に来る時は、パスポートで来るようにと。次から気をつけろってことね。もう来てはいけないってことじゃないでしょって確認し、そりゃもちろんと了解を得る。その担当官は、かつて日本に住んでいたとき福岡や鹿児島に行ったよと話してくれて、かなり気さくで驚き。

だって、いま李登輝さん日本に来てるでしょ。隣国の批判を甘受し受け入れた日本人をそうむげにできないでしょうと、たかをくくっていた自分は、甘いのかな？まあ、これで無事出国となったわけで。

## 日本到着

18時30分。時差調整し、19時30分日本到着。入国手続きでさっそくひっかかり、別の場所へ移動。なんか悪いことしたみたいでちょっと嫌な感じで。

続くは荷物チェック。日本だけよね、こんな厳しい荷物チェックし

ているの。他の国じゃ担当官さえいないことが多いような気が……。初めての海外旅行からの帰国時、バックパッカー一つの姿を大いに怪しまれ、バック内全てチェックされたことを思い出す。

で今回はというと・・・、布製バググ一つとビニール袋掲げる自分に対し

担当官「荷物はそれだけ？」

hiro「全部流されたからね」

これだけの会話でスルーパス。いや、いまや日本でも通じます。って、単に荷物がないだけからか。

## 山口自宅へ

残っているお金、2800B。単純計算でも、日本円にして8400円。ここから為替の変化と結構大きい手数料がいくらかかるか。まあ、5000円あれば新山口駅まで帰れるからと安心感はある。ところが、福岡空港でのインフォメーションで、思わぬ話を聞かされる。「両替店は既に閉まり、利用は明日以降になる」と。って、何のために必死に節約して・・・。

だいたい他の国では、普通に23時くらいまで空いてるよ、そもそも空いてなきゃまずいでしょ。外国の方はどうするわけ？東京三菱銀行がだって。なんてお役所仕事な会社だ。利用者の利便性とか考えたことがあるのかな。これだから外国の銀行入れろって話になるのよ。競争がないからそんなのんきなことを平然とやってるのよね。

でもでも、そこまで言い寄らず。なぜかって？お迎えがあったから。旅行会社アロハウエーブの北村さんが。来るって分かっていたらもっとお金使えたのに……。でも、おかげでその場で1万円を借り、これで山口に帰ることができました。

本当にありがとうございました。電車で食べてとお菓子までもらった上、地下鉄駅まで付き合ってもらい、ありがとうございました。



ありがとう、北村さん

博多駅で博多ラーメンを食べたいなと店を探すが見つからず。駅構内の鳥炭火焼有名店でつまみを買ひ、新幹線に乗車。いや、なにはともあれ無事家に戻れたわけで。なんとも色濃い思い出たっぷりの旅でした。

## (10) 旅の感想

多くの経験と出会いがあり、自分が考えていた以上の旅となった。普段味わうことができないことを経験できるのが旅だとしても、今回は輪をかけて二度と経験できないことの連続だった。タイの優しさ、懐の深さを再び感じる事ができたこと、普段出会えない人達と知り合えたこと、様々な国の人達と出会えたことが大きな収穫。生死を実感する経験ができたことは、自分にとって今後の大きな糧となるだろう。

いろいろあったけど、実感したのは、自分はやはり東南アジアが、タイが大好きだって言うこと。いろいろなものを与えてくれたタイにいつか恩返ししたいという気持ちは、より一層強くなったし、もちろんまた再びタイを訪れタイを満喫したいと思う。

また、このスマトラ島沖地震による津波で、タイを愛し、ピピ島を愛す中亡くなられた方々の冥福を心より祈るところである。ピピ島が復興するその時、またタイを訪れ、その美しさにもう一度触れると共に、この時の記憶を思い起こしたいと思う。

自分の行動により、心配をかけた方々への謝罪とお礼はこの場を借りてさせていただく。いろいろご迷惑をおかけしましたが、無事戻ってきました。いろいろ心配していただき、ありがとうございました。

それでは、また次の旅日記で会うこととしましょう。